

発行 千葉労災職業病対策連絡会

〒262-0032 千葉市花見川区幕張町 4-524-2

千葉民医連事務センタービル 2F

TEL/FAX 043-273-9199

E-mail : chiba_syokutairen@ybb.ne.jp

千葉職対連ニュース

あきらめずに、共感の輪をひろげよう

落ち葉が風に舞い、今年も残り少なくなりました。米国のトランプ大統領に代表される「自国優先、排他主義」、日本では安倍首相による「議論無視の強行採決」が大手を振っている様に見えます。

しかし、性的嫌がらせを告発する「Me too 運動」が世界規模で拡がりを見せたように、社会的弱者が強者を追い詰める事態になってきました。

近年増え続けている精神疾患は、弱者が強者に一方的な心身に暴力を振るわれるパワハラ・セクハラが大きな要因と考えられます。企業が過重労働を強いるのもパワハラと考えられます。過労死家族の会

が安倍首相の「働き方改革」法案は過労死・過労自死を増加させると、国会の内外で法案反対を訴えました。残念ながら法案は可決されましたが、訴えは法案の問題点を浮き彫りにし、多数の付帯事項を盛り込むなどの成果をあげました。

米国言いなりで軍事基地を押し付ける日本国に対し、沖縄県民の「オール沖縄」の断固とした闘いは素晴らしかった。各地で闘い続ける多くの人々が沖縄から勇気をもたらたのではないのでしょうか。

職場で学校で家庭で、弱者があきらめずに声をあげ共感の輪を拡げていきましょう。

忘年会のご案内

日時： 2018年12月15日(土)17:00～

会費： 千円

会場： 同祖会館(船橋市勤労市民センター向かいの同祖神社内)



「明治維新」と「日本破滅」との関係 (その2)

話を戻します。なぜこのような官僚・政治が生まれたか。教育であることは分かりますが、どうしてそんな教育になったのか。英国の歴史家アクトン卿は「権力は腐敗しがちであり、絶対権力は絶対に腐敗する」と警告しています。この警句を読んだ瞬間、私は150年前の「明治維新」を思い出しました。そこでは権力の交代があり私物化が横行していたからです。

「権力者には、その権力を利用しようと擦り寄る者が現れる一方、権力者に仕える者は、たえず権力者の顔色を窺っては忖度しもの申せなくなる。その場合、権力者が喜びそうな方向にばかり働き、結果として物事が歪み公平公正が失われる」とあります。前述した『日本型悪人』に見られるものと一致しています。「愚かな軍人」たちの生態で「東条首相周辺」で起こった事実と瓜二つ。

維新政府はアクトン卿の「警句」も知らず、針路を誤ったのが150年前の「明治維新」だと思います。「公権力は、その私物化(*2)が進むと物事が歪みます」「公平公正さが次第に失われ」、最後に日本が破滅したのでしよう。

*2:私物化

明治維新では政府高官による汚職事件が頻発。権力を私物化した典型的事件(*)でありその規模と内容は維新史にも特筆される事件でしょう。問題は、権力の私物化が新政府が出来て始まったのではなく戊辰戦争前からすでに始まっていたのです。新政府ができて権力の私物化がやむどころか慢心した新政府高官の歯止めが利かない状態になっていました。この権力の歪みこそが、その後の日本の国策とその国策の推進で国民の教育を歪めていったのです。同時に歴史修正主義が横行したのも(次頁へ)

明治政府の特徴といえると思います。歴史修正主義は権力の歪みを国民の眼から隠蔽するために起こる必然的現象ですが、これが現在にも直結している問題だと思います。

*典型的事件

山県有朋の知人の「山城屋和助事件」、井上馨の「尾去沢銅山奪取事件」、木戸孝允の「小野組転籍不許可事件」、黒田清隆の知人に対する「北海道官有物廉価払い下げ事件」

最近の新聞に「注目」すべき「フレーズ」がありました。新聞の書籍広告ですが著書名『明治維新と西郷隆盛』のサブタイトルに「明治維新は理想的な世直しであった」というフレーズです。これを見た時、私は「ええー」と声をあげました。この歴史観は一体どうしたことか。「明治維新がもし理想的な世直し」だったならば、その80年後という短期間になぜ日本は滅ぶのかという疑問が出ますが、それにこたえられるのか。「理想的な世直し」で始まった国家がわずか80年後の短期間に破滅にむかったのがなぜなのか。

10年余り前、近現代史の勉強を私が始めた時、司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』は私の疑問解明には障害でした。司馬氏は「明るい明治と暗い昭和」として80年間をどこかで区分しています。これがもし正しいとすると、どうして「明るい明治が暗い昭和」へと「日本が劣化したのか」疑問がでます。その「明・暗」を分ける歴史の「転換点」がどこにあるのか、当時の司馬氏の著書からは私は解明できませんでした。

最近上梓された半藤一利氏の著書『歴史と人生』にはその説明がありました。半藤氏は「近代史40年周期

説」を「持論」としています。それによると「日本は明治維新からの40年で国を作り、次の40年で国を滅ぼした」と。ちょうど真ん中のあたりで登りから下りへと転換したと指摘しています。肝心なのは同じ著書の中で半藤氏が私にとって司馬氏の新たな説を紹介しているところです。「司馬氏が暗い昭和を描けなかった理由」のくだりで触れています。「司馬さんの小説はいつも明るい、その司馬さんには、恥ずべきヘドの出るような昭和の人物群像(*3)は小説に書けなかった。その事実の一端として、日露戦争時(*4)頃からの日本についての心情を吐露している」としています。

*3、4:昭和の人物群像についてはすでに前述した雑誌で保坂氏が明らかにしています。「東条英機首相をはじめとして、牟田口廉也司令官、服部卓四郎参謀、海軍大将嶋田繁太郎、参謀辻正信、参謀瀬嶋龍三、…」など錚々たる軍人たちです。日露戦争は当時「明治37,8年戦役」とよばれました。その頃には“ヘドの出るような昭和の人物群像”が育ちつつあります。日露戦争頃、彼らは司令官を補佐する青年将校として第一線の舞台に立つようになり、40年後までも波及する「国防計画指針」をたてています。その計画は「国家防衛」でありながら国を防衛する統一的視点はありません。陸軍や海軍という組織の方針はあっても日本の国家防衛指針はありません。陸海軍組織の個別の権力を私物化した二つの「防衛計画」が併記されただけでした。「合理的な考えが排除された国防計画指針」が「国を亡ぼす指針」になったのですから、国民はたまりません。愚かな指導者を持った国民の責任も大きいといえます。(次号へつづく)

北辰

当面の取組日程

千葉職対連事務局

11・21(水)	千葉職対連幹事会	17:30~	民医連事務センタービル
22(木)	県職員公災裁判弁護団会議	17:30~	船橋第一法律事務所
23(金)	千葉県権利討論集会	13:00~	千葉土建本部会館
24(土)	労災職業病なんでも相談会	13:00~	千葉市中央コミュニティセンター
28(水)	過労死等防止対策推進シボ	14:00~	千葉市ハーモニープラザ
12・7(金)	県職員公務災害裁判	10:00~	千葉地裁603号法廷
8(土)	大田患者会総会・望年会	14:00~	東京都障害者福祉会館
9(日)	いの健千葉理事会	10:00~	船橋市勤労市民センター
15(土)	千葉職対連常任幹事会	10:00~	船橋市勤労市民センター
15(土)	労災職業病なんでも相談会	13:00~	船橋市勤労市民センター
15(土)	千葉職対連忘年会	17:00~	道祖会館(船橋)
2019年			
1・9(水)	いの健千葉理事会	18:15~	自治体福祉センター
16(水)	千葉職対連常任幹事会	17:30~	千葉民医連事務センター
26(土)	労災職業病なんでも相談会	13:00~	成田市中央公民館